

経営比較分析表（令和6年度決算）

山形県置賜広域病院企業団 公立置賜総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	24	対象	ド透I未訓ガ	救臨が感へ災地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	44,010	-	第2種該当	7：1

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
420	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
46	4	470
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
399	-	399

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
-	類似病院平均値（平均値）
[]	令和6年度全国平均

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

公立置賜総合病院は、置賜二次保健医療圏の中核医療機関として高度・専門医療を提供するとともに、小児・周産期医療、精神医療等の専門医療を担い、災害拠点病院としての機能、臨床研修指定病院として研修医を育成する教育機能も有している。
また、置賜地域唯一の救命救急センターを併設し、救急医療を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「⑤入院患者1人1日当たり収益」は、平均在院日数の短縮等により増加したが、患者数の減少により入院収益は減少した。
「⑥外来患者1人1日当たり収益」は、高額薬剤を使用する患者の増等により増加し外来収益は増加した。
なお、精神科を有するため、入院・外来ともに診療単価は他病院と比較すると低い状況にある。
医療収益が前年度に比べ減少したのに加え、物価高騰の影響により医療費用も増加したため、「②医業収支比率」は3.1ポイント悪化した。
「①経常収支比率」は、「①医業収支率」の悪化や新型コロナウイルス感染症に関する補助金が廃止されたことにより4.1ポイント悪化した。

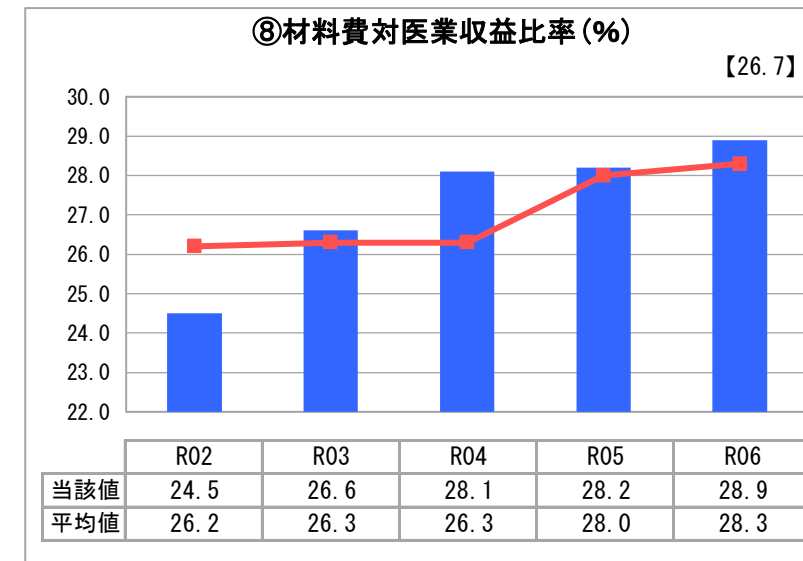
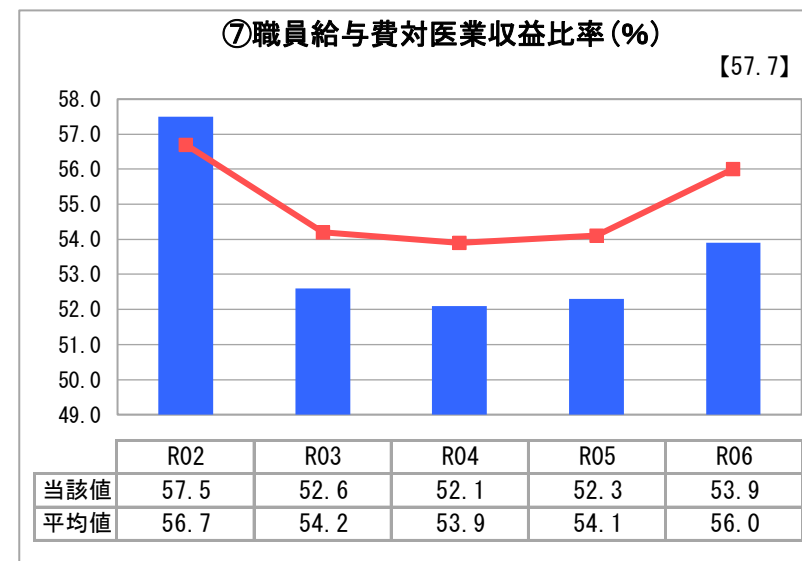
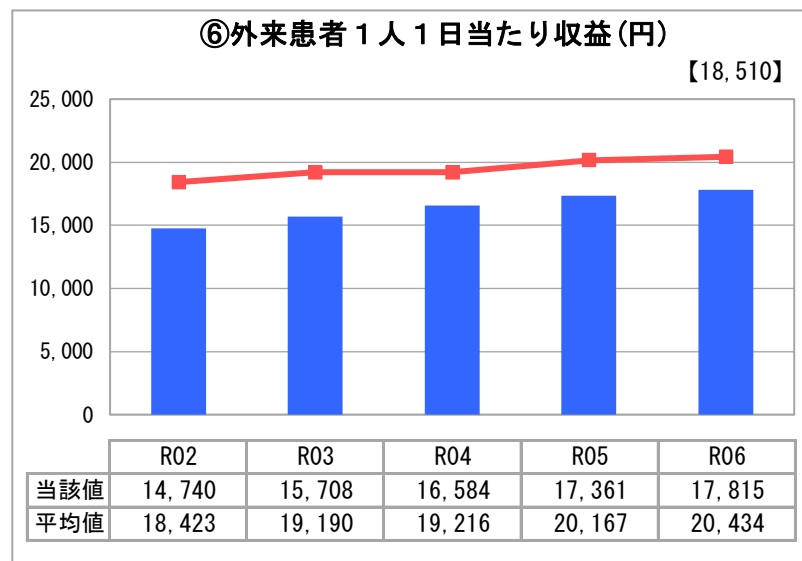
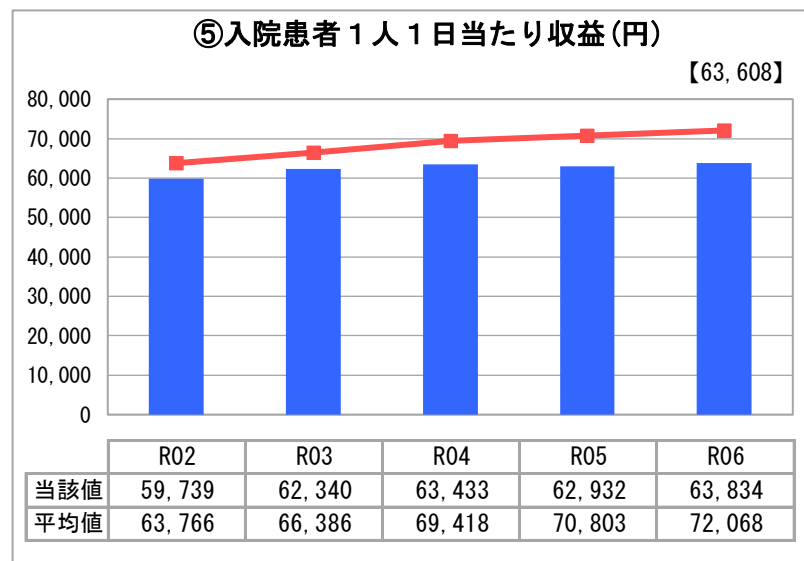
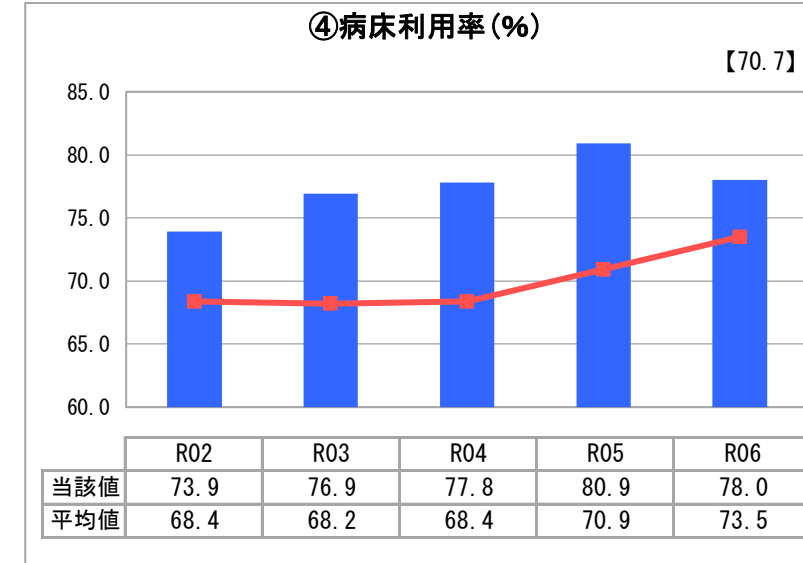
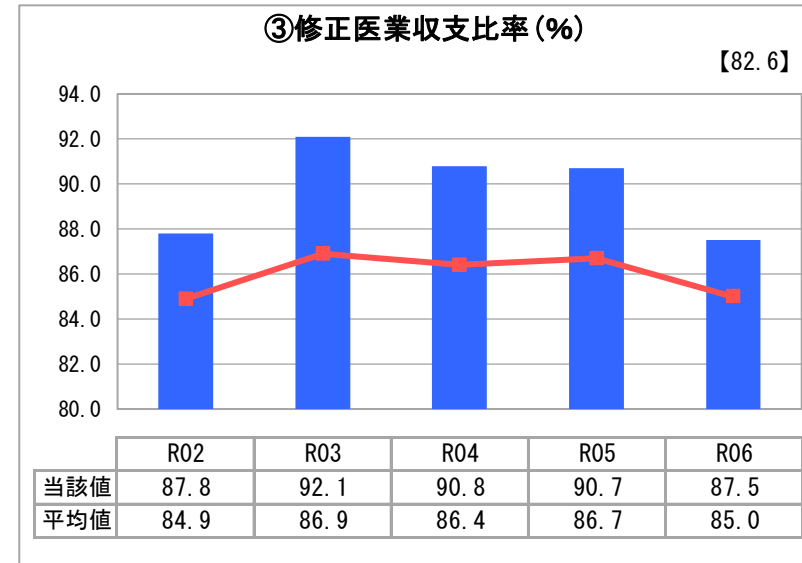
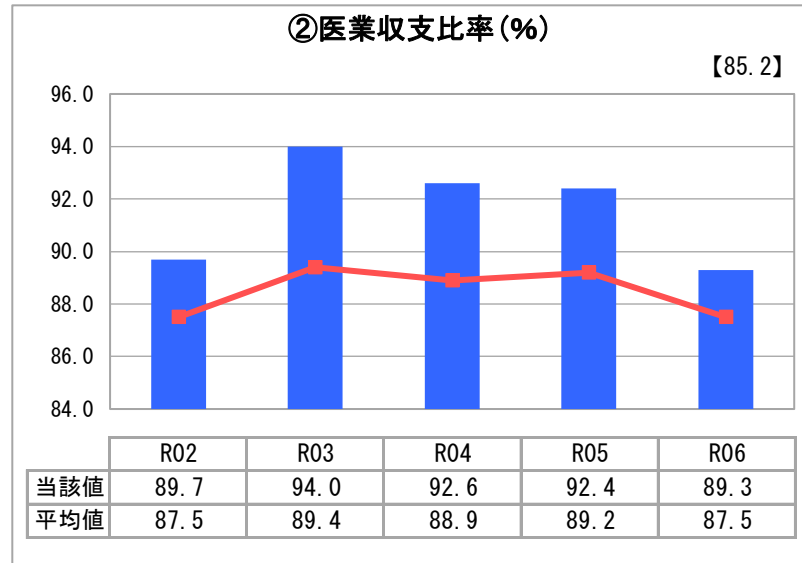
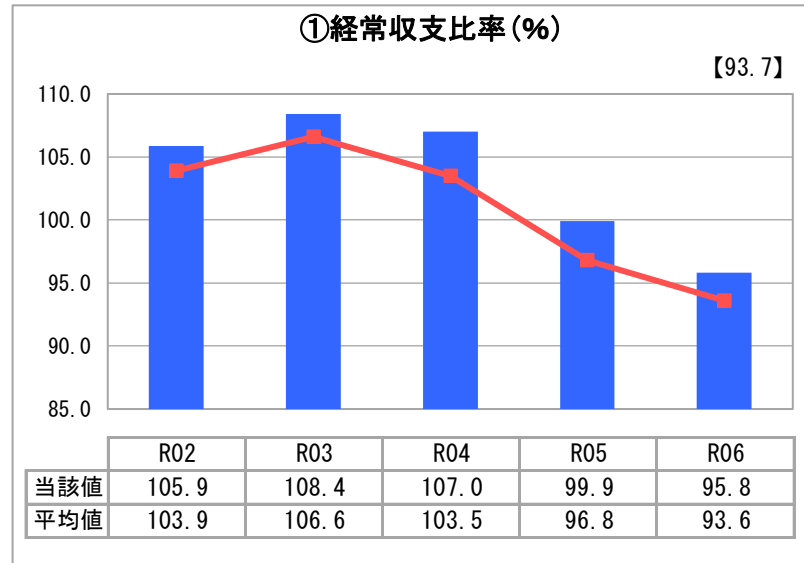
2. 老朽化の状況について

「有形固定資産減価償却率」は、前年度より1.1ポイント増加、類似病院平均値より12.4ポイント上回っており老朽化が進んでいる。
「器械備品減価償却率」は、前年度より2.8ポイント増加しているが、類似病院平均値より2.4ポイント下回っており、順調に更新が進んでいる。
以上から、有形固定資産の中でも建物（施設・設備）の老朽化が進んでおり、長寿命化への対応のため今後は大規模な改修費用の計上が見込まれる。

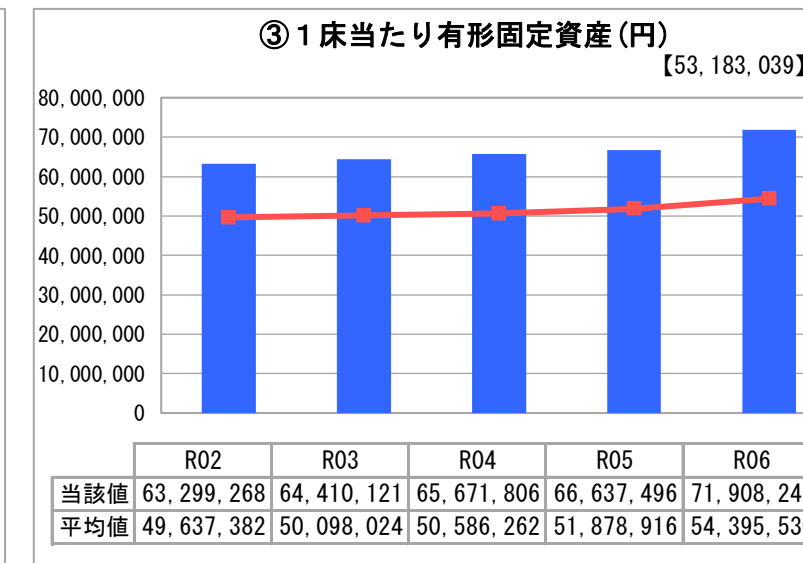
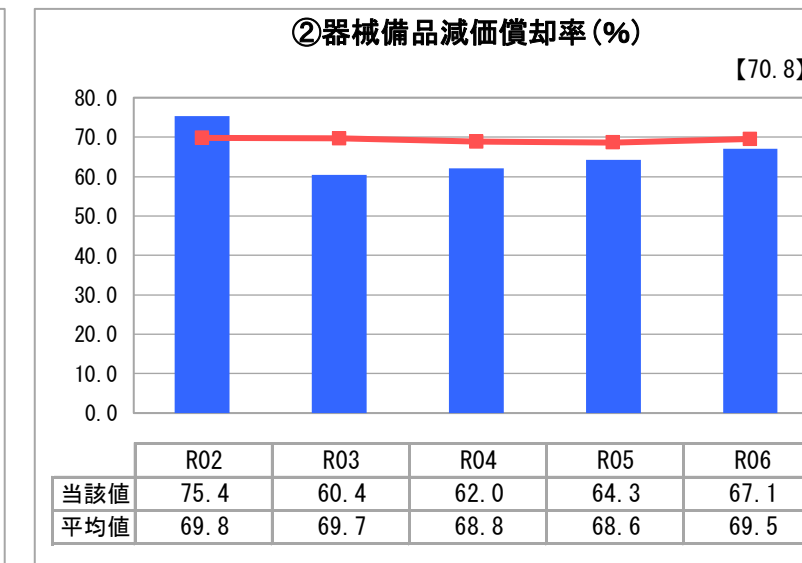
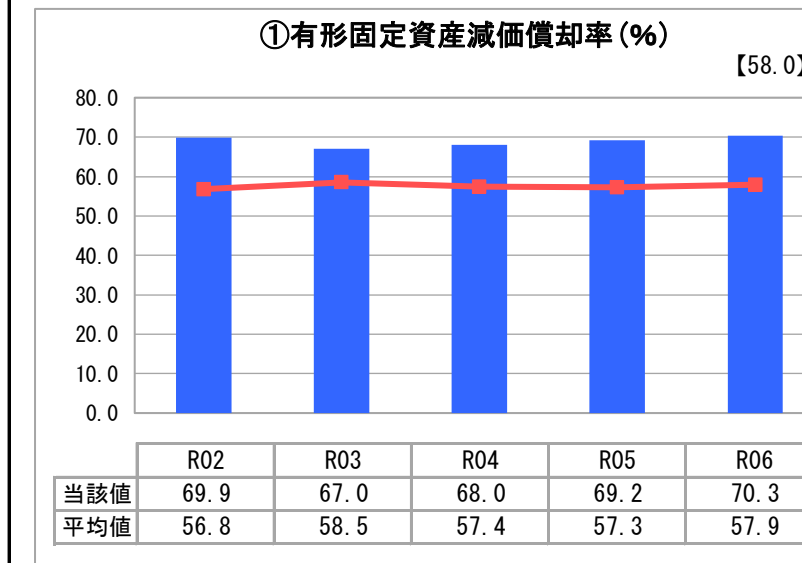
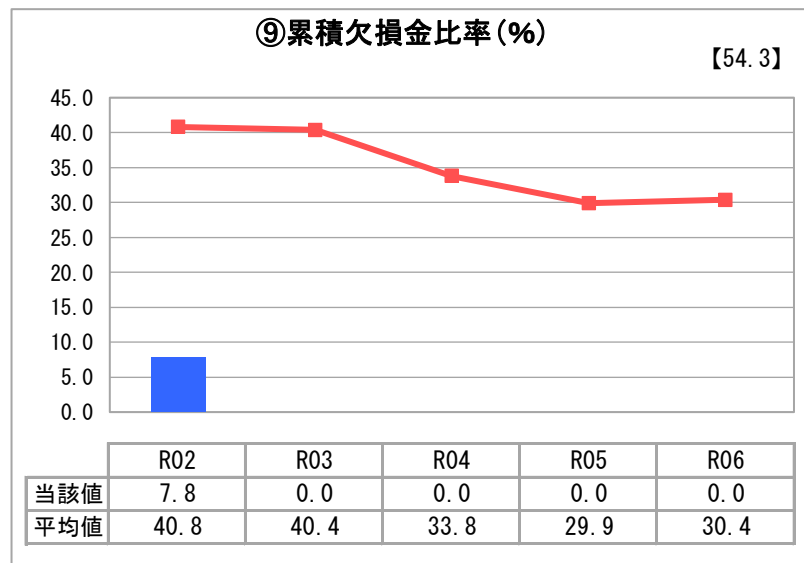
全体総括

令和6年度は、医療収益の減少に加え、物価高騰の影響により医療費用が増加したことで医療収支は悪化した。
今後は、物価高騰の長期化や、人口減少に伴う患者数の減少、建物老朽化による支出の増加等によって、より厳しい経営状況が見込まれるため、引き続き診療単価の増額等による収益の確保や、材料費や経費の適正化等を図ることにより医療収支を改善し、健全経営に努めていく必要がある。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和6年度決算）

山形県置賜広域病院企業団 公立置賜長井病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	11	-	透訓	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	4,284	第2種該当	-	15:1

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
50	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	50
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
50	-	50

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和6年度全国平均

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

公立置賜長井病院は、高度医療や救急医療を提供する公立置賜総合病院との機能を分化しつつ密接な連携を取りながら、住民に身近なサテライト施設として、初期医療及び回復期医療を提供している。また、在宅療養患者の受け入れや患者の在宅復帰支援を行っている。院内には、長井市地域包括支援センター長井病院支所、長井市訪問看護ステーション、長井市西置賜郡医師会の地域在宅医療連携推進室を併設しており、地域の医療連携に取り組んでいる。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

医療費用が医療収益によってどの程度賄われているかを示す医療収支比率は、類似病院平均値を1.5ポイント上回っている。病床利用率は類似病院平均値を23.3ポイント上回り、入院患者1人1日当たり収益も増額傾向である。外来患者1人1日当たり収益も類似団体平均値を上回っている。また、医療収支比率に対する職員給与や材料費は類似団体平均値を下回っている。今後さらに効率的な経営を行うには、入院単価の増額を検討するなど、安定した収益を確保できるよう取り組む必要がある。

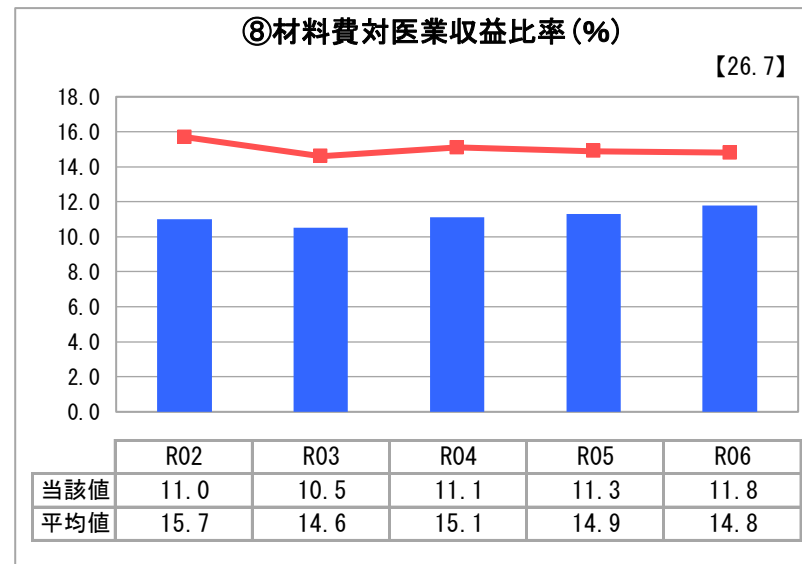
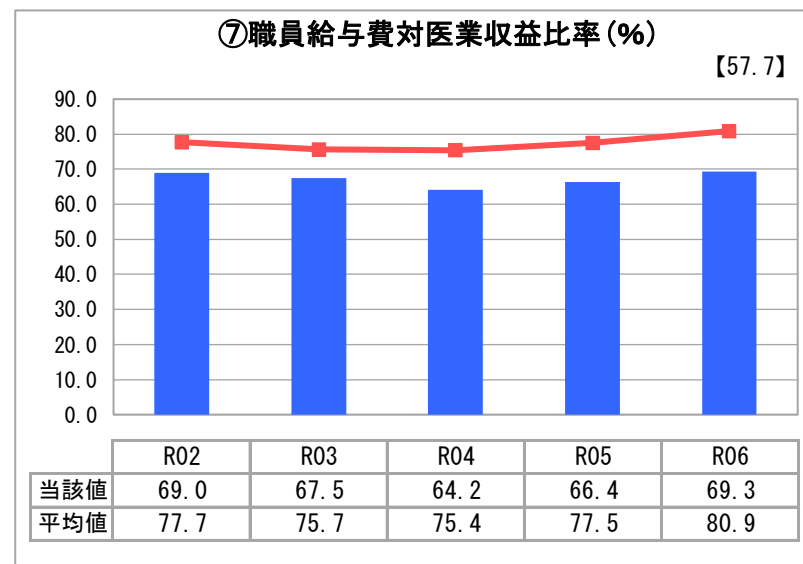
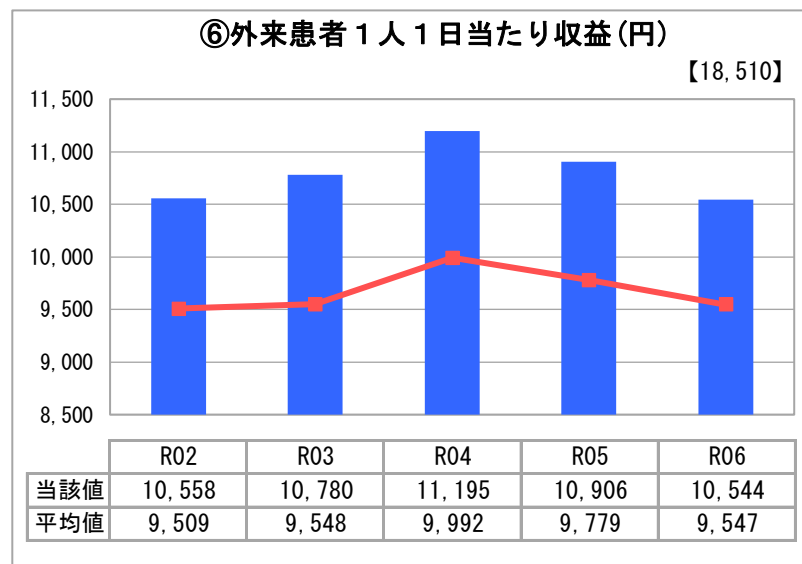
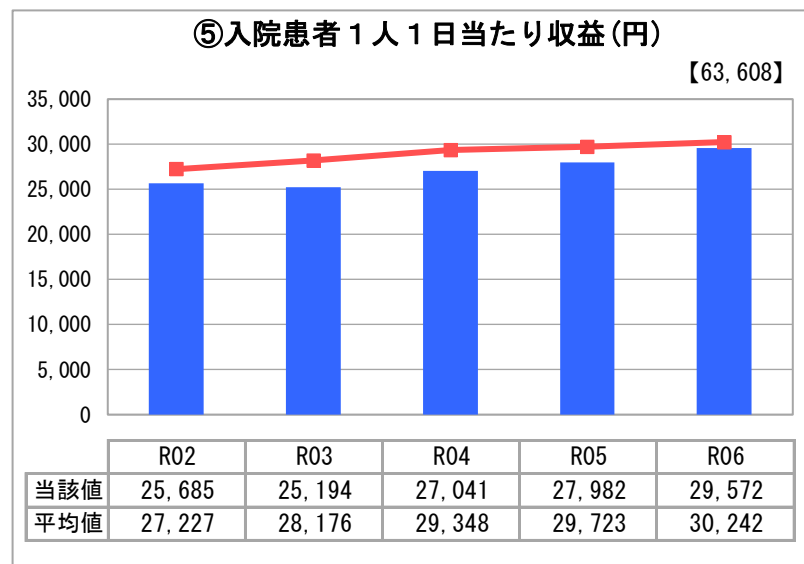
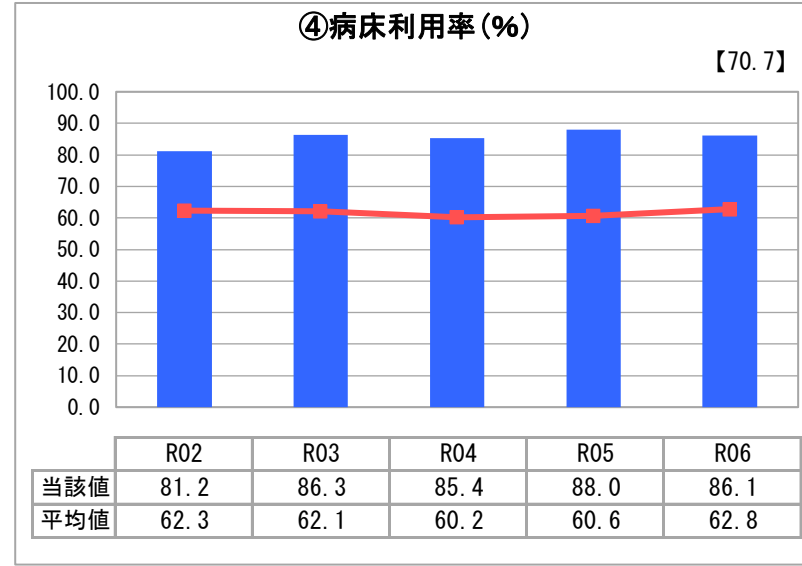
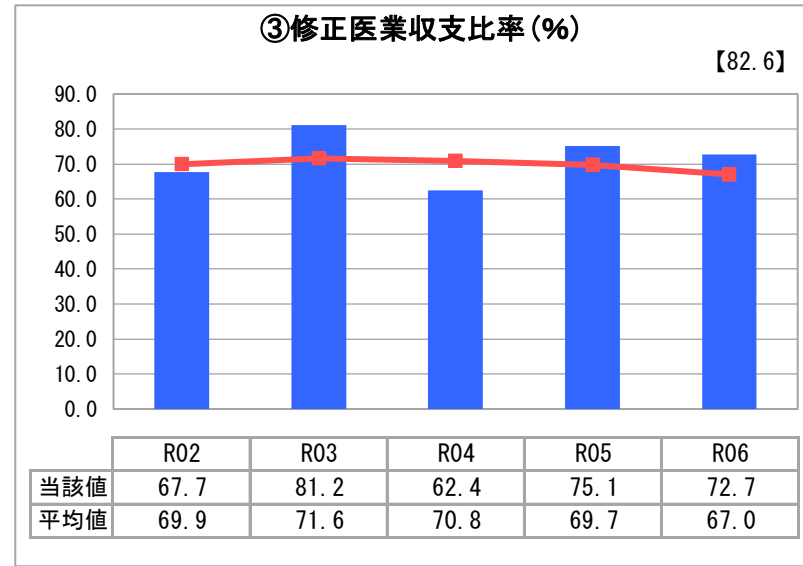
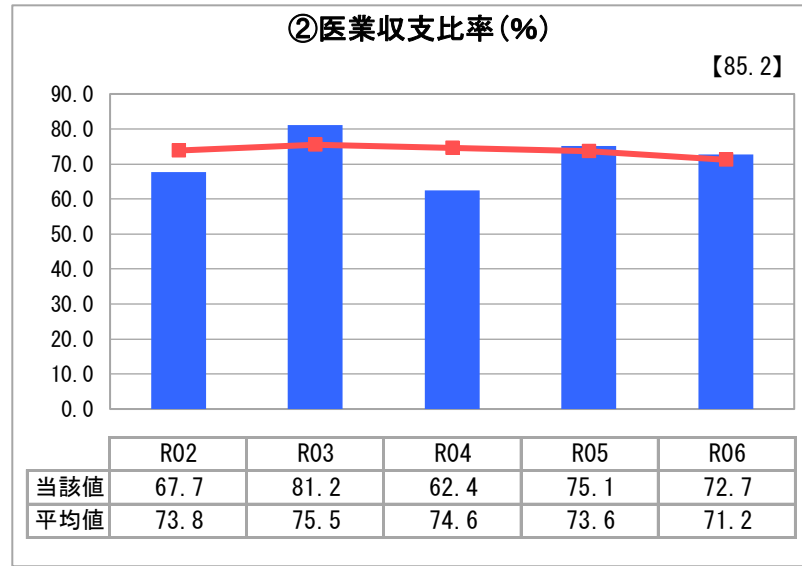
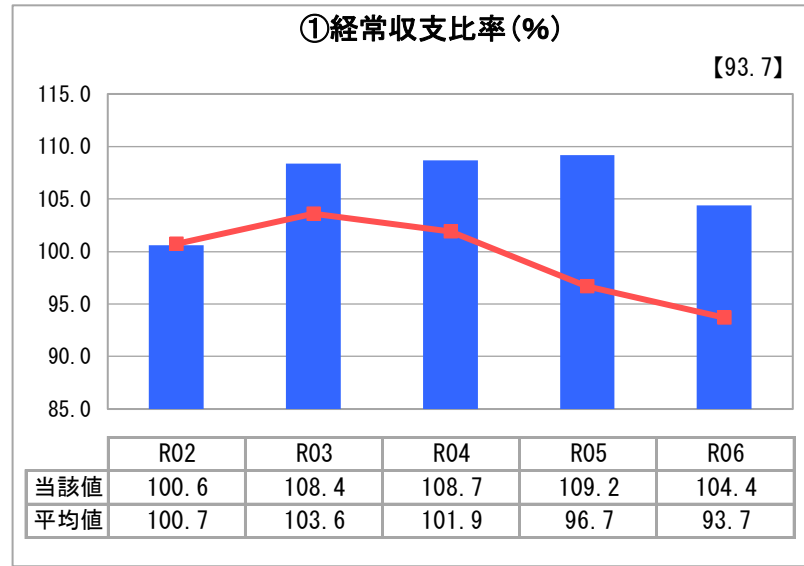
2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、類似病院平均値を44.3ポイント、器械備品減価償却率は18.9ポイント下回っている。令和4年度に完了した病院改築により、有形固定資産の老朽化は大きく改善されている。

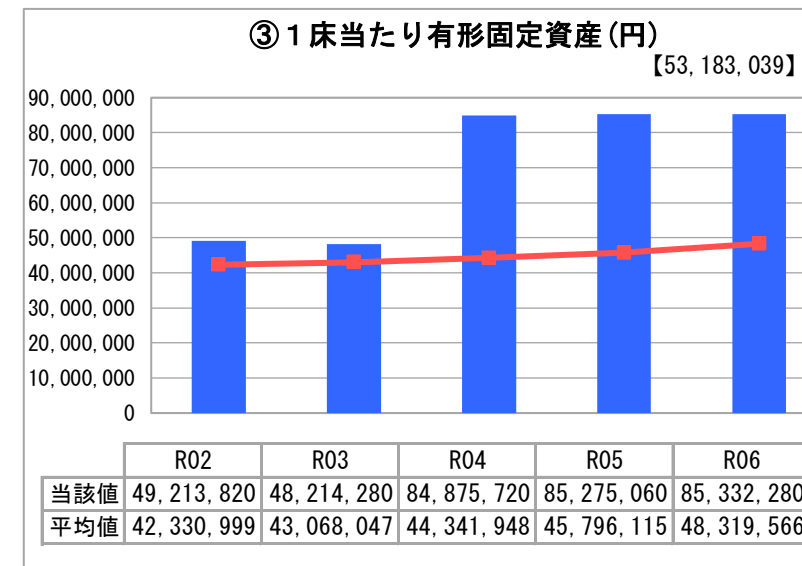
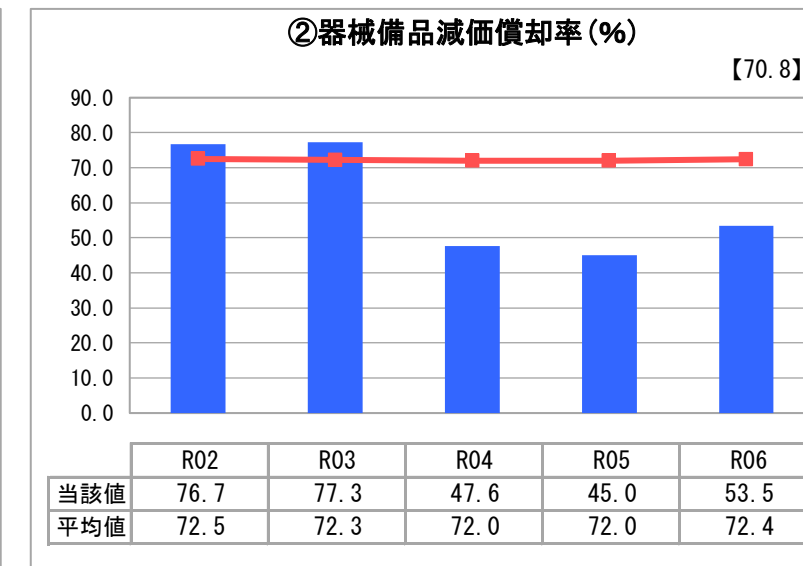
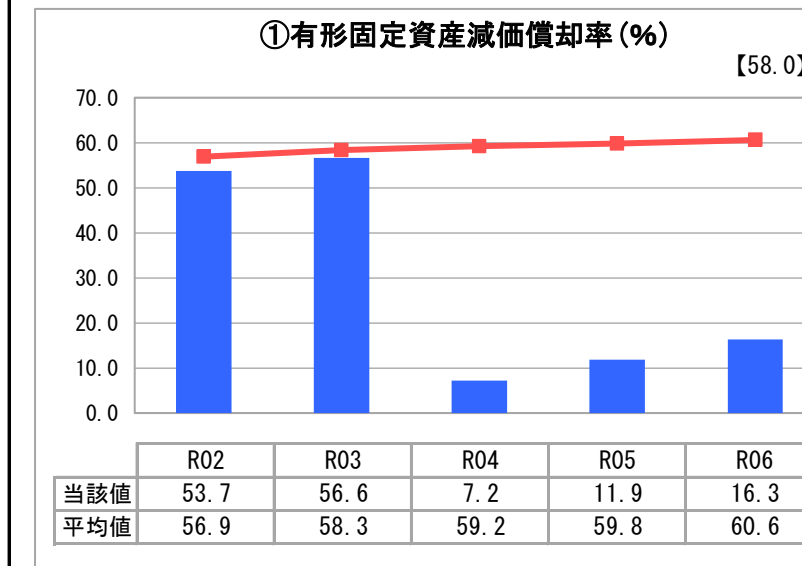
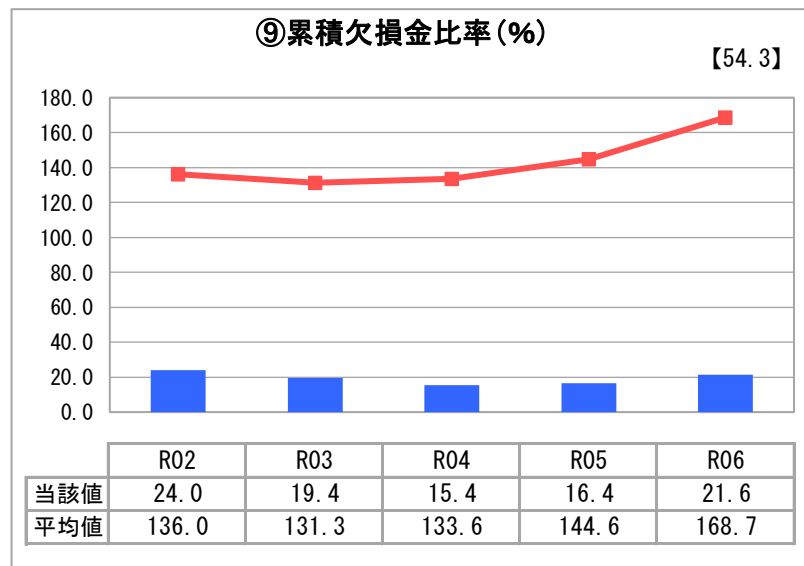
全体総括

今後、地域の人口減少が進むにつれ患者数の減少が懸念される。また、物価の上昇により費用が増大しており経営は一層厳しくなっている。収益を安定して確保していくために、公立置賜総合病院や地域の医療機関や福祉施設と連携しながら、経営基盤の強化に取り組んでいかなければならない。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和6年度決算）

山形県置賜広域病院企業団 公立置賜南陽病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	12	-	訓	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	3,850	第2種該当	-	15：1

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
50	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	50
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
49	-	49

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
[]	令和6年度全国平均

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

高度医療や救急医療を提供している同企業団の公立置賜総合病院と機能分化を図りながら、より住民に身近なサテライト医療施設として、初期医療や回復期・慢性期医療の提供を行っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

包括病床患者や外来患者数が増加し、医療収益が増加した。一方で、人事院勧告に基づく給与費の増加や材料費の上昇などにより医療費用が増加し、医療収支比率が前年度比5.3ポイント悪化し、経常収支比率も4.4ポイント悪化している。令和元年の病院改築後、「外来患者1人1日当たり収益」が類似病院の平均値を下回っている状態が続いているが、ほかの指標については平均値以上を維持している。

2. 老朽化の状況について

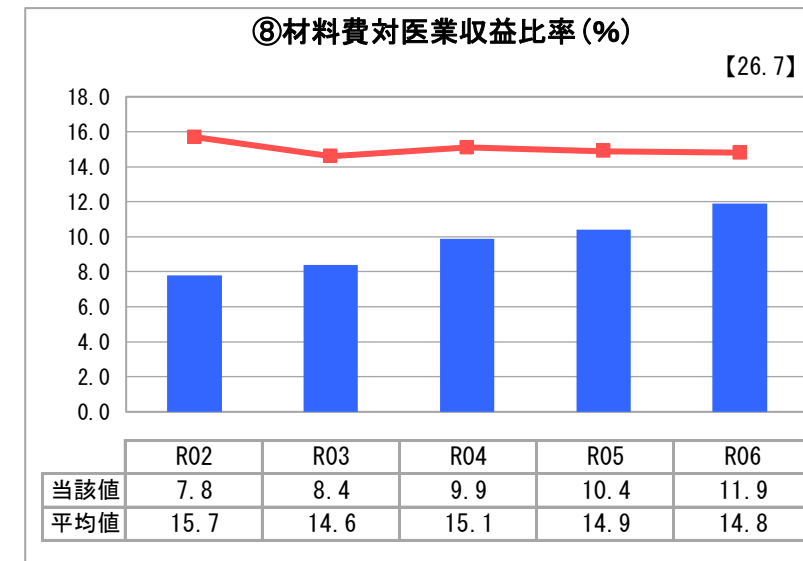
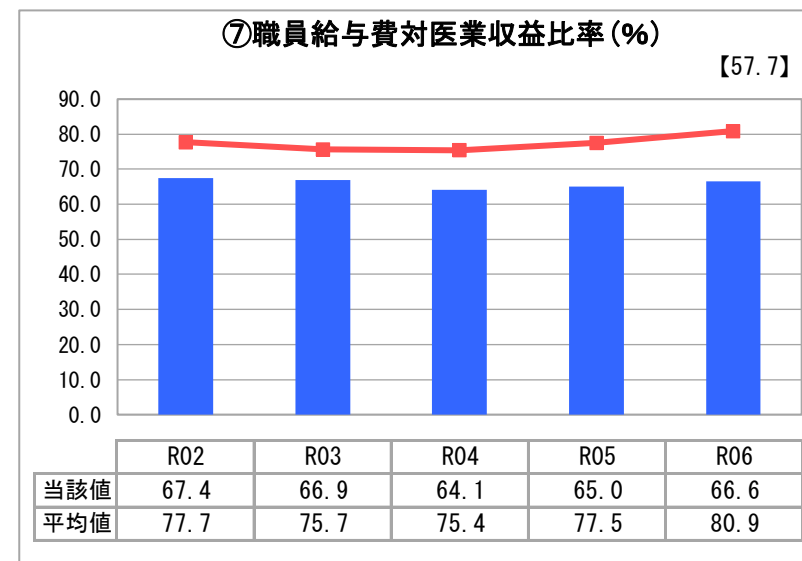
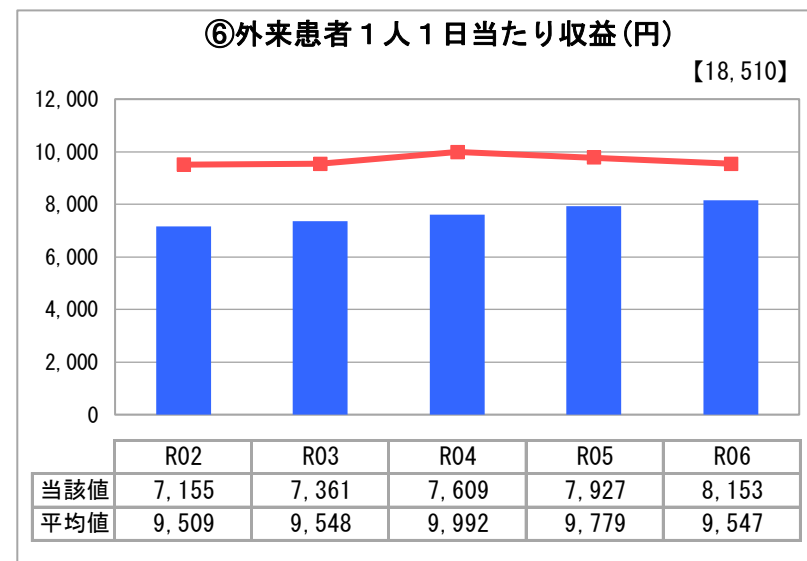
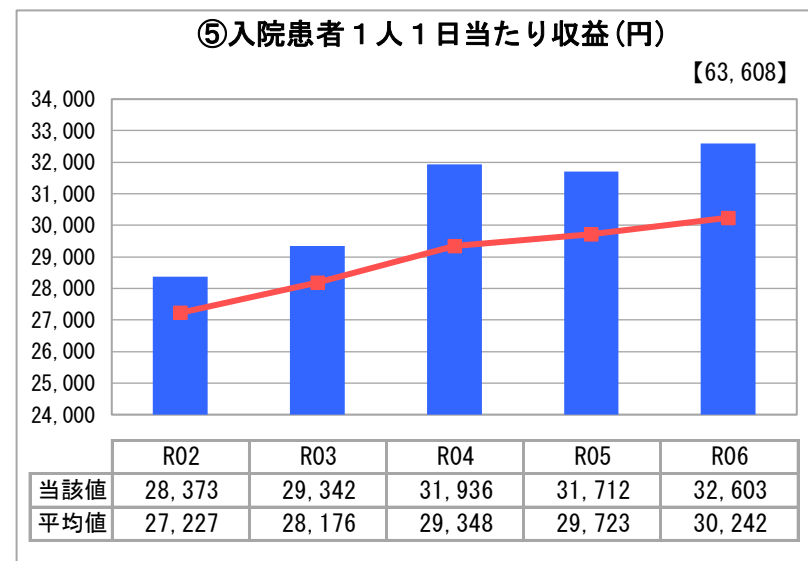
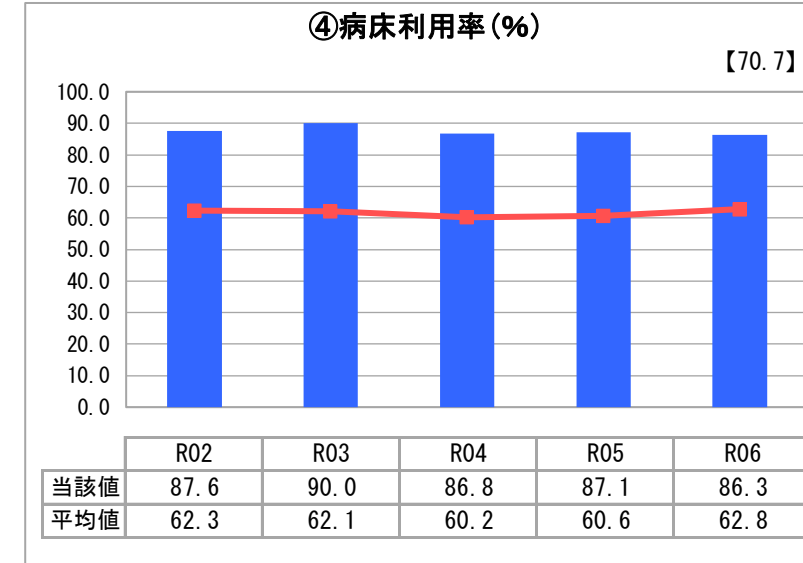
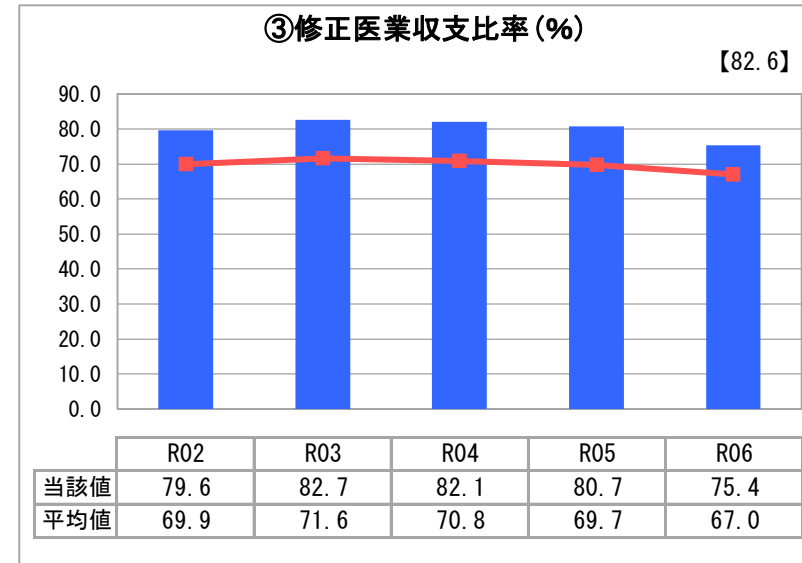
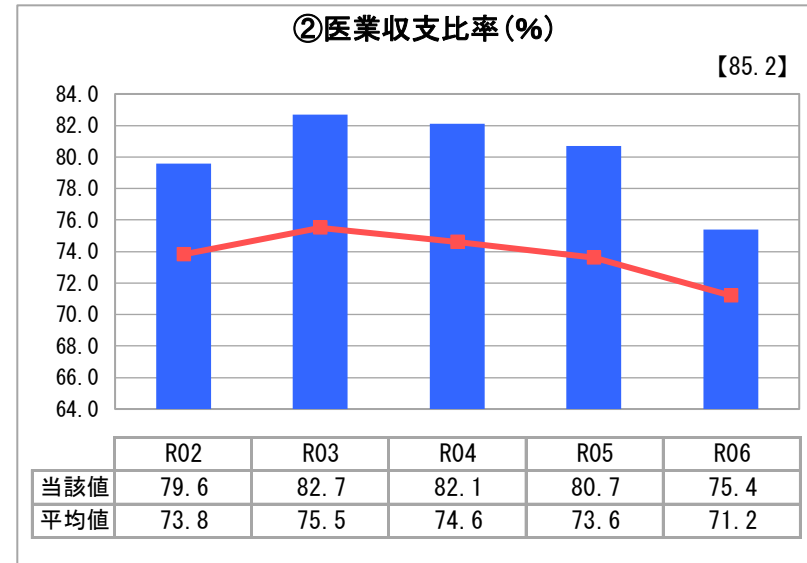
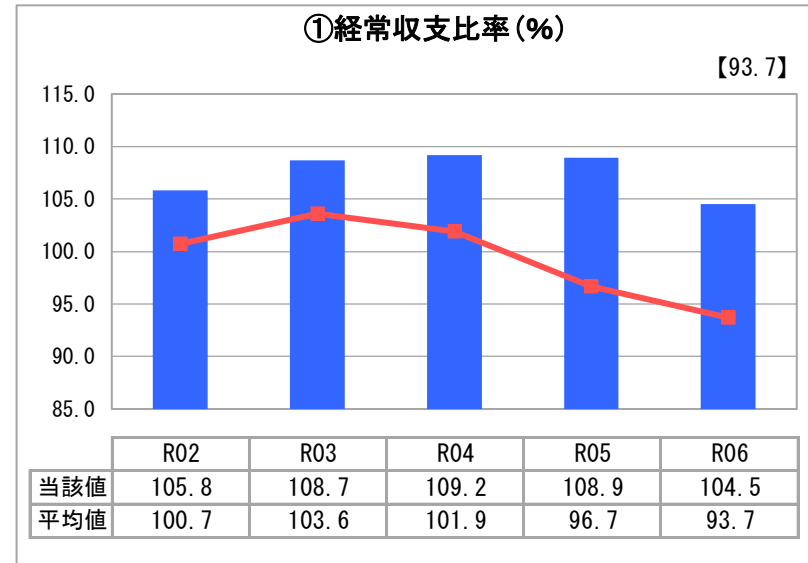
令和元年に病院改築をしたことから、1床当たりの有形固定資産は類似病院平均値より多い。今後短期的に見て改修等の費用は増えないとみている。

全体総括

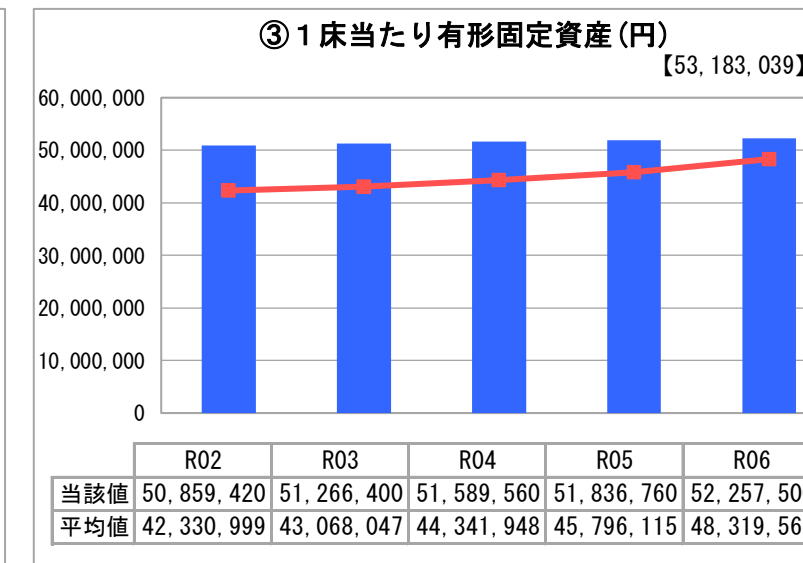
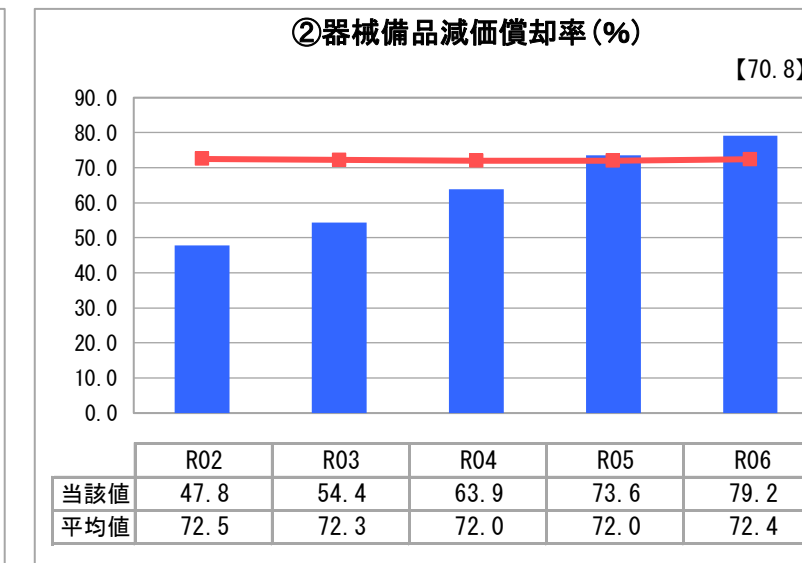
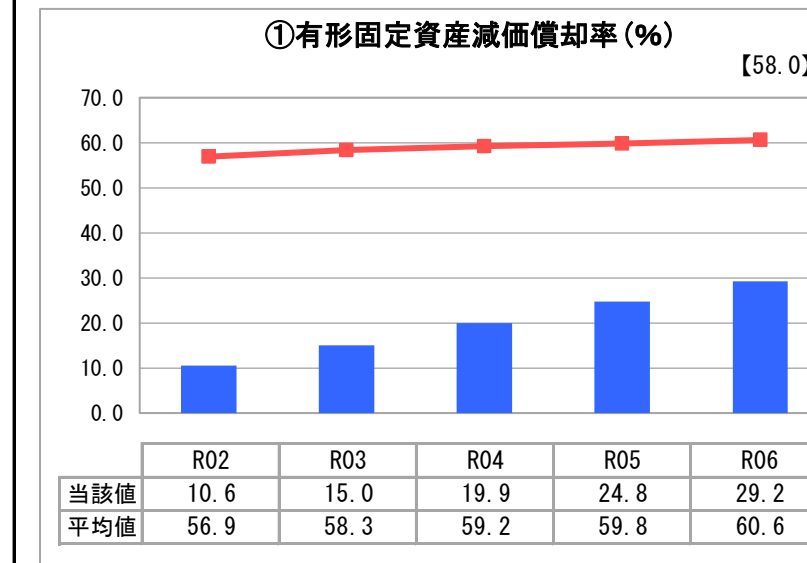
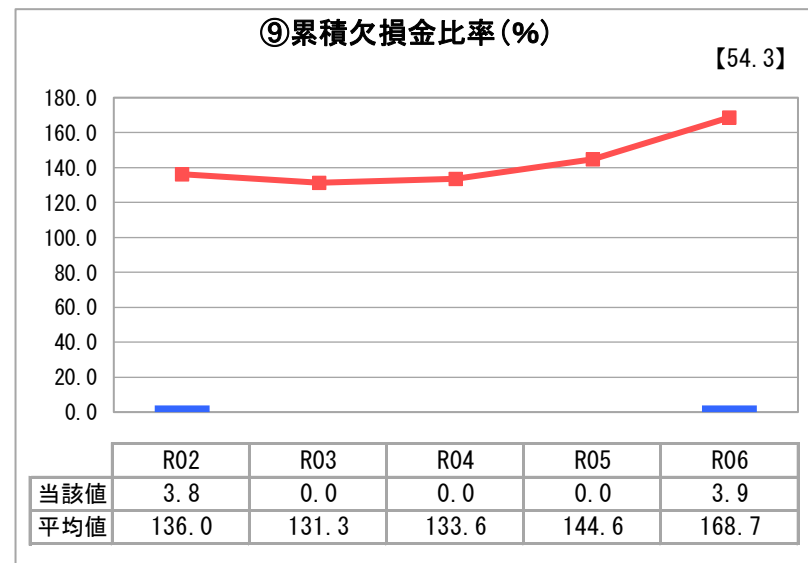
令和元年度に改築した当院は、山形県地域医療構想や各種将来推計を踏まえ、公立置賜総合病院との機能分化・連携、在宅医療の推進医療施設として整備され、建物の耐震性能確保や患者の療養環境改善も図られた。

改築事業に伴う減価償却費の増加や新型コロナウイルス感染症等への対応、物価上昇・電気料金の高騰などにより厳しい経営環境が続く中、地域住民への医療提供体制を確保するために、更なる収入の確保・経費の削減に取り組んでいく。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。